

今年2巻目の支部だより奈良の盛夏号を発行しましたので、ご紹介いたします。

◎ 第24回通常総会開催さる

6月2日(日)午後1時に、第24回通常総会(第1部:総会、第2部:特別講演とQ&A)を近鉄畷傍御陵前の近く、奈良県社会福祉総合センターの6階中会議室で開催しました。

第1部: 総会

会員総数 94 人のうち 55 人(出席者 16 名、委任状 39 名)が出席し定則数を超えての開会です。

大門理事の総司会で、村木支部長の開会の挨拶に続き、前期亡くなられた5名に黙祷を捧げました。

本部の戸川達男会長の祝辞が披露され、顧問医師の西川先生、中嶋先生、横田先生のご紹介後、西川特別顧問より一言頂きました。

続いて近畿ブロックの関西・兵庫・滋賀の各支部長さんからお言葉を頂きました。

審議: 会則により、支部長が議長となり、通例の通り、第1号・2号議案として、令和5年度事業報告、決算・監査報告、第3号・4号議案の令和6年度事業計画と同予算案が上程され、審議の結果全会一致で承認されました。総会は無事終わりました。

それにより、事業を絞って新年度もやって参ります。よろしくお願いいたします。

第2部: 特別講演とQ&A

参加者は、会員や医療関係者に一般市民も加え総勢約 50 名の会合でした。

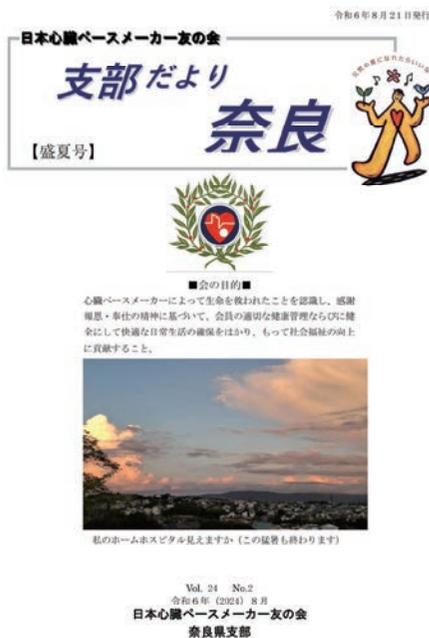
①特別講演

奈良県総合医療センター副院長川田啓之先生の「みんなで心不全を予防しよう」と題する講演を頂きました。

②Q&A

中嶋民夫先生の司会で顧問先生方に加え、機器メーカーの方々の同席で、Q&Aを行いました。会場からの質問も加え、全5問に対し、顧問の先生方の回答に加え、機器メーカーの方からと、非常に活発で、ためになる会でした。

詳しくは、今後発行予定の「講演会とQ&A集第10号」をご覧ください。



最後に、北林名誉支部長の閉会の挨拶で無事終了となりました。



総会后全員の集合写真を撮らせて頂きました。

◎ 本部総会・全国支部長会、近畿ブロックの支部総会に参加して

- ①滋賀県支部総会
 - ②兵庫県支部総会
 - ③本部総会・全国支部長会
- に参加して、その概要を報告しています。

◎ 会員の皆様から

8月に全会員に暑中見舞いを出し、近況を返信してもらいました。その数 33 通、その量はA4 5ページに及びました。ここでは割愛しますが、全文を掲載しました。ただその中に、訃報2通と、退会を表明する1通がありました。



◎ 今年の取り組み

(1)これまでの取り組み

①バースデーカードグリーティング

今年1月からお誕生日を迎える会員さんにバースデーカードを送ろうと、板橋理事の発案でスタートし8ヶ月になります。思った以上に反響が大きく、月に2、3件のお礼電話を頂いています。まだの方は、もう少しお待ちください。

②かていてるへの投稿

友の会のかていてるに投稿するなどあまり考えていませんでしたが、ここにきて2件投稿できました。1件は昨年秋の奈良フォーラムのQ&Aです(Vol.55 No.2 2024年4月)。もう1件は「支部だより」のコーナーで奈良県支部の活動を紹介するものです(Vol.55 No.3 2024年7月)。これは4月の締め切りにタッチの差で遅れ、タイミング的にはぼやけた感はありませんが、まあ良いかと思っています。

③総会の特別講演とQ&A集の作成中

今年の第24回総会に引き続き開催された特別講演とQ&Aのテープ起こしから編集作業を進めています。

④報恩・奉仕活動

ペースメーカーにより受けた命を社会のために報恩・奉仕しようと、地球温暖化防止に挑戦している市民団体(NPO 法人市民省エネ節電所ネットワーク)に参加し、活動の一翼を担っています。

この活動に理解と協力を惜しまなかった白樫満雄さんが亡くなりました。市民団体の設立から関わって、役員も務めてくださいました。大きな痛手です。

活動は順調に進み、8年間で過ぎた今も続いています。その間の結果は、コロナ禍の影響もほとんど受けず、提案した市民と省エネ・節電する新しい仕組み(市民省エネ・節電所と呼ぶ)の継続性と有効性の高さを実証し、かつCO2削減もできました。

「もし奈良県支部の参加がなかったら、こんなに良い結果にはならなかった」とよく言われます。これこそ、報恩・奉仕に当たると言えます。今後も、県支部の他の活動を邪魔しない範囲で、係わっていきます。

(2)これからの取り組み

①てくてく会

今回は少し趣向を換え、てくてく会の前に、昼食とおしゃべりのパートを加えました。てくてく会だけ、あるいは昼食とおしゃべりだけという参加もあり、他支部からあるいは一般の方の参加も歓迎です。

日時 令和6年11月3日(日) 11時～15時

集合場所 近鉄奈良5F「百楽」

参加費 100円 (保険料)昼食費用 2000円位、バス代が別途必要です。

持ち物 身障者手帳

ルート 昼食後バスで大仏前へ。下車後南大門、大仏殿を通り、正倉院を目指します。

大仏池に映る紅葉をたのしみながら、転害門(手貝門)に到着です。休憩後、バスで近鉄奈良駅に、ここで解散。

今回の企画に関心のある方は、まず下記へ、電話か、Fax、メールで意思表示をお願いします。追って詳細日程等をご連絡いたします。(郵便代高騰の折、ご協力ください)

電話で、080-1453-2368
か 0742-27-2365 (中西)か、
080-3106-0257 (大門)

Fax は 0742-49-6326、
メールは sd-yoshi@hera.eonet.
ne.jp (村木)



◎ 追悼の辞、白樫満雄さん、友の会の運営に尽くされたご功労に感謝します

訃報： 最強の同士で協力者の白樫満雄さんが7月24日に亡くなりました。

家族葬だということで、連絡が遅くなりました。

白樫さんは長く副支部長を務められ、ご功労は多大のものでした。また市民と省エネ・節電する市民団体ではこの3月まで役員を務めて下さいました。

いままでのご協力、ご厚情を感謝し、謹んでご冥福を祈ります。

村木正義

会員：小糸昱夫様より

ご連絡ありがとうございます。

白樫満雄様の訃報に接し言葉がありません。

2008年の心臓ペースメーカー友の会で初めてお会いして以来随分お世話になりました。友の会奈良県支部の発展に尽力され、思慮深く温厚なお人柄が臉に浮かびます。

最近では各種会合に参加されていなく心配していましたがまさか・・・と言う思いです。今までのご厚情に深謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

顧問先生： 齊藤 精久様西の京病院循環器内科顧問・西の京介護医療院やすらぎ施設長より

ご連絡ありがとうございます。

白樫さんはいつも穏やかな立ち居振る舞いで、友の会には無くてはならない存在でした。

友の会の運営に永年に渡りご尽力くださったご功労に感謝すると共に、心よりご冥福をお祈り致します。

合掌

支部長： 村木正義様より(割愛)

◎ =サロン= 目から鱗が落ちる(支部長 村木正義)

昨年の総会の Q&A で、視野に無数に小さな点が現れ、そこで動き、点だけではなく、金網状になったり、道ばたでは雑草などになり、その色も黒、赤、緑と変わりますが、「幻視」ではありませんか、またこのまま放っておいて良いのでしょうかと相談させていただきました。それに対し、顧問先生からは眼科に相談するか、脳に関わる幻視の一種だろうから、脳外科か脳神経内科に相談するのが良いだろうと意見を頂きました(かていてる Vol.54 No.4 43 ページに掲載)。

それで脳神経内科にも相談に行きましたが、Vol.55 No.2 20 ページで紹介させて頂いたような顛末でした。眼科では、しっかり調べてくれた後で、「とくに異常は見当たらない。ただ年齢相応に視力が落ちており、水晶体が濁ってきているので、白内障の手術を受けたらどうですか？」ということで、幻視との関係は分からないまま、放って居たのですが、その後かなり見えにくくなったので、6月に手術をしてもらいました。

その結果は・・・シルクスクリーンがかかったようで見えにくかったのが、スッカリ綺麗になったのです。これが正常な視野かと驚くほどです。後で気がついたのですが、問題の幻視も綺麗に消えてしまったのです。まさしく、「目から鱗が落ちる」でした。ところで、「目から鱗」とはよく聞きますが、鱗が剥がれてよく見えるようになると思っていましたが、調べてみるとそうではなく、「あることをきっかけとして、急にものごとの真相や本質が分かるようになる。」だそうです。私の例で言うと、白内障の手術をしたことで、幻視の原因がレンズ体の濁りだったということが分かりました。これこそ、「目から鱗が落ちる」です。

豆知識:

ところで、この出典は新約聖書だといえます。こんなことまで聖書が起点かと、探してみると、新約聖書の使徒言行録9章にありました。イエスを迫害したサウロという男が神の光によって視力を失っていたところ、イエスの使いが来て手を置くと、「たちまち目から鱗のようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。」と書いてあります。これだけの文ですが、2千年たった今でも使われているとは驚きです。

ただ最近の文化庁の調査では、本来の言い方とされる「目から鱗が落ちる」を使っているのは 80.6 パーセントの人で、8.7 パーセントの人は間違って「鱗が取れる」という意味で使っていると言います。

以上